

やぶなべ

青森県立青森高等学校生物部 発行

誌名	やぶなべ
号/発行年/頁	5 / 1959 / 69-70
タイトル	東北大会に参加して
著者名	宅重英彦

自然を見つめる やぶなべ会 (青森)

東北大会に参加して

宅重英彦

日本動植物学会東北支部第12回大会が8月6、7日の両日、秋田市秋田大学で行われた。

わか校からは

- (青森市海洋の植物群落 - - - - 2年 川村正行
- 校内空中細菌調査 - - - - 1年 山道忠郎

との二項目を発表いたしました。

前日の5日に他の人の見送りを受け我々5人はまだ見ぬ秋田市に胸をときめかせ、石川先生引率で青森駅を出発した。途中発表する川村、山道の両君はしきりに原稿とにらめっこしていたが、時面もたつと原稿をしまい袋紙縛々、真夏の太陽の照りつける秋田所に入った。駅前からバスで旅館に行った。僕達は福島高校の二人と同じ部屋に入り、写真をとってもらった。

食後の人で附近を散歩したが近代的な建物にまじって古い昔の建物があつた。又、樹木は青森より多くて新鮮な空気が流れていた。

さて翌日、会場の秋田大学に出かけた。開会式のすんだ後、いよいよ発表が始まった。大会の様式は会場を動物、植物、小中学生発表会場と三つに分けて、その各部門ごとに発表をさせた。

一つの発表(5分面)が終り、質問の後に、東北大、秋田大等の先生がこの研究はおもしろい物だとか、これからはこうやつたらいいとかあそこの英をくわしくやつたらよいなどと(考評したり、指導してくれた。さて川村君の「青森市海岸群落調査」は制限時間5分で要領よく発表し、なかなか良い評を得た。又「校内空中細菌」の山道君、学校での練習の結果が、うまく発表し、後の考評と良く、自分の学校がどんなであるかという事を知る為にも面白い研究だといわれた。

僕はプログラムを見て、聞きたい物に印しをつけ各会場を代り代り回って見ました。その中で興味を持った物は「フランクトンに関する研究」と「メダカの体色変化」や「メダカの生態」の三項目でした。「フランクトンの研究」これは僕達も夏休みに「フランクトンの日周活動」について調査したもので興味をもった。「メダカに関する研究」これは近頃の小川で泳いでいるのをみかけ、愛着のよてるものだからです。尚「メダカの生態」これは中学生2、3人で発表したか、よくこれまでやつたと感心させられた。

生物の研究発表会という行事に初めに見た僕がこの大会を見て感じた事は発表した人が皆一生懸命発表し、自分の研究した事を他の人に解ってもらおうとしていたという事だ。

色々発表するのを聞いて、それが皆熱心に根気よくやって来た結晶だったのではないかと思う。

すなわち生物に対して非常に強い研究心(追求心)を持っているからだろう。

それから生物は広範囲な物であることを深く感じた。というのは秋空を何か悲しげに飛びゆく赤トンボ、教室の隅隅をかえる一輪の菊、毎日食べる野菜、粟、御飯弄の食物、又地面をエサ集めに動いているアリ、そして私達も生物の中の極一部にすぎないんだなと気づく物をあけて見てもわかると思

全部発表が終わった後、全員で記念写真をとる趣やかなひとこましあった。閉会式の時発表者全員に賞状が渡され楽しい中に終わった。

その日の晩、秋田名物で昔からある竿燈を何十と見たが、竿をあつかう妙技に感心した。

翌日、秋田城跡に行つて動物園を見たり、おみやげを買いにデパートに行ったりしている内に時に時節になり駅へ行つた。そして秋田に残る先生に見送られて、青森とは別な雰囲気とするなごり借しい坂下町秋田市を後に帰路についた我々は、お土産の秋田名産オコシより最すばらしいみやげを持つて帰りました。それはこの大会で聞いた色々な発表や考評です。これらは僕達の研究に似たのや同じ物があつて大変参考になりましたからでした。

それから約5時間後、僕達はオコシ祭りの終わったなつかしの青森に無事に着いた。

(1959.11.1)